

教員学院報

2020. 4. 1
第93号
真宗高田派教学院

この題字は宗祖聖人八十六歳の時にお書きになられた『誓願真像銘文』（本山藏）の文字から作成したものです。

不安を生きる

第二部会主任 田中明誠

令和も二年目に入りましたが、年明け早々から、新型コロナウイルスが社会的な問題となつていきます。先日もある方からメールをいただきました。それは以下のような内容でした。

（この情報は中国武漢でコロナウイルスを研究している医療従事者からの情報です。）という文面からはじまり、（この菌は26度〜28度のお湯に弱いのでお湯をよく飲んでください。また日光浴もこの病気には有効です。）というコロナウイルスについての有効な対策情報が他にも色々と言文で書かれてあり、最後に（できるだけ多くの人にこの情報をお知らせください）とありました。

それを読んだ私は、早速何人かの知人にこの情報をメールで

そのまま送付しました。そして自らもそれを実践すべく、お湯を飲むことを心がけたり色々行っていました。

それからほどなくしてそれは全くのデマであることをニュースなどの報道で知り唖然としました。

なぜ騙されたのか。しばらくの間考えておりました。そもそも送り主が普段から接している仏法をよく聞いている先輩であるということ、そしてその内容が、特に何かの勧誘を匂わすものではなくむしろ善意的なものであったということ。などかなんかの疑いもなく信じていたのであらうと思います。しかしそのことは今でも私の中では深く引掛かることであり、あらためて今思うことは、何より病気に對する不安があるからではなかったかということです。目に見えない未知なるものに生活を脅かされる不安。不安が強くなると迷いも深くなるというまさにそのままの有様でありました。そんな中今も様々なデマや過剰な報道が飛び交い、我々は流されています。

このまま不安を恐れそこから逃げる生き方を歩むのか、それとも不安から逃げ惑う自らの姿に気づいた生き方を歩むのか。不安が強い時こそそれが問われています。今までぼやかしていたものがより一層はつきりしてきたということでありましょう。

いよいよ「浄土の真宗は証道いま盛んなり。」（教行証文類後序）を問いたずねて行く時ではないかと感じています。

「自坊報恩講を勤めて」

第二部会 南部 義幸

昨年の十二月十日に自坊の「報恩講」を勤めました。「報恩講」に於いては、自坊の住職が、お式文をご拝読させて頂くのが通例です。私は7年前に父である先代より自坊の住職を継承致しましたので、今回が7回目のお式文拝読となりました。

7年前に住職を継承した際は、先代の父から、「報恩講に於いて、お式文をちゃんとご拝読できて初めて寺の住職と言えるのだよ」と言われていました。その為に住職継承当初は、拝読作法、読み方、節まわし等の基礎をしつかり覚えて、その後、実戦形式で練習を何度も繰り返し行っていました。そして、住職として初めて迎えた「報恩講」に於いては、読み間違えたり、止まる事なく、何とかお式文をご拝読させて頂きました。その際には、お式文を持つ手が震え、ご拝読中の声も震え、作法通りに行えたかどうか分からない位、緊張しましたが、「何とか終わったな」と安堵したのを覚えていきます。

それから7年、毎年、自坊の「報恩講」の際には、お式文をご拝読させて頂いております。しかし、最初にお式文拝読に臨む際に抱いていた緊張感は、年々薄れてきたような気がします。そのせいか、今回の自坊での「報恩講」に於いては、ご拝読途中に、今迄、間違えた事のない箇所で見間違えをしてみました。「そんなに練習しなくても大丈夫だろう」「少し位、間違えても誰も気付かないだろう」等、心の隙ができていたのかもしれませんが。住職継承当初の「報恩講」に於いては、もっと慎重に大事にお式文に向き合っていたと思います。

「報恩講」の「報恩」には「ご恩に報いる」という意味があります。まずは、「ご恩」を頂戴している事自体に気付けるかどうか、大事なのではないのでしょうか。

今回の自坊「報恩講」での出来事に於いて、今一度、住職継承当初の気持ちを思い出し、何事にも真摯に向き会っていかなければならないという事に気付かせて頂きました。

今後も「ご恩」に気付く事のできる日々を過ごせるよう歩んでいきたいものです。

「稀有な存在」

第三部会 都築真海

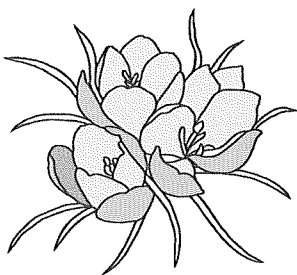
夜空を眺めていると人口衛星（飛行機と違い、点滅しない光が移動している）を目にすることがあります。ちなみに国際宇宙ステーション（ISS）は高度四百キロ程のところ、浮かび、大きさはサッカーコートぐらいとのこと。本山からみてちょうど茨城県の鹿島スタジアムが真上に浮かんでいる感じでしょうか。

月と地球の距離は三十八万キロ。光の速さ（ $300,000$ km/s）で表すと約一、三光秒になります。太陽と地球は一億五千万キロ。光の速さで八光分となります。今、地球に向け帰還している「はやぶさ」は、「りゅうぐう」で仕事をしている時、地球から指令を送ると指令を受けるのに十六分かかったそうです。つまり「りゅうぐう」は太陽の倍遠くにある小さな星だったのです。

昨年は初めてブラックホールの写真が撮られ話題になりました。あのM87星雲は五千五百万光年先にあり、また「2MASX J07・・・」と呼ばれる「恒星がブラックホールに引き裂かれる現象のみられる銀河」は三億七千万光年先にあるそうです。まさに気の遠くなる天文学的数字です。

仏法の中にも三千大千世界という宇宙感があります。私たちのいる宇宙を小世界とすると、小世界が千個集まり小千世界。小千世界が千個で中千世界。中千世界が千個集まって三千大千世界です。極楽浄土はその三千大千世界の外側にあるそうです。私たちの宇宙を1センチ角の角砂糖とした時、小千世界は一辺10センチのキューブ。中千世界は1メートルの箱。大千世界は一辺10メートル、三十畳ほどの天井の高い講堂のイメージでしょうか。

サイエンスにしても仏法にしても想像を絶する無限空間の中で、私たちはこの小さな緑豊かな星に、人として生を受け、今を生きています。しかしこの事実は偶然に起きたことではありません。父と母がいて、その両親にもまた父母がいて、ご先祖あつてのことです。そして今、私たちは如来様に出会い日々を暮らしています。まさにこの稀有なご縁、不思議に感謝せずにおれません。



令和二年度 教学院年間行事予定

十一月	十月	九月	八月	七月	六月
<p>二十六日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p>	<p>三十日(金) 教学院研究発表大会</p> <p>二十四日(土) 令和二年度三重県地域文化財総合活性化事業重要文化財《専修寺聖教》美術工芸品保存修理活用事業講演会(第四部会)</p> <p>二十二日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p> <p>七日(水) 布教伝道研修講座 第二回 講師 荒山 淳 師(第三部会)</p>	<p>二日(水) 仏法と現代を考える集い(第二部会)</p> <p>二十四日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p>	<p>三十一日(月) 法語カレンダー解説本発行(第一部会)</p> <p>院報 九十三号 発行</p> <p>二十七日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p>	<p>二十三日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p> <p>二十二日(水) 布教伝道研修講座 第一回 講師 一楽 真 師(第三部会)</p>	<p>二十五日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p> <p>院報 九十二号 発行</p>



十二月	<p>十四日(水) 布教伝道研修講座 第三回 講師 花岡静人 師(第三部会)</p> <p>十七日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p> <p>院報 九十四号 発行</p>
一月	<p>二十八日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p> <p>第十期 真宗入門講座 第一回(第一部会)</p>
二月	<p>二十四日(水) 布教伝道研修講座 第四回 講師 花岡静人 師(第三部会)</p> <p>二十五日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p> <p>第十期 真宗入門講座 第二回(第一部会)</p>
三月	<p>二十五日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p> <p>第十期 真宗入門講座 第三回(第一部会)</p>
四月	<p>二十二日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p> <p>第十期 真宗入門講座 第四回(第一部会)</p> <p>院報 九十五号 発行</p>
五月	<p>二十七日(木) 新指定重要文化財講座(第四部会)</p> <p>第十期 真宗入門講座 第五回(第一部会)</p> <p>布教伝道大会(第三部会)</p>

【その他】

・法語カレンダー法語解説
本作成

(第一部会 八月末発行)

・学習会(第二部会 未定)

・掲示伝道ポスター作成

(第二部会)

・シンポジウム講演録作成

(第二部会 次年度の六

月頃発行)

*予定のため、開催日時が変更になることがあります

*公開講座の開催日時や内容については院報やチラシなどで通知いたします

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 教 学 院 研 究 員 を 募 集 し ま す ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

教學院では随時、研究員を募集しております。募集要項は左記の通りです。任期の途中からになります。皆様どうぞ教學院の活動にご参加下さい。

【募集要項】

一、趣 旨

高田派の発展と教學院の振興及び人材育成をはかるため第七期研究員を募集する。(教學院規約第六条第三項にもとづく)

二、任 期

四年

(令和元年六月一日〜令和五年五月三十一日)

三、活 動

各部会に所属し、個人または部会全体で研究活動を行う。

四、応募資格

高田派僧侶、寺族、壇信徒で趣旨に賛同し、積極的に研究事業に参加できる者。

五、手 続 き

用紙に左記事項を記載して、教學院に提出する。

- (一) 所属寺院名、住所、氏名、連絡番号
- (二) 規約第四条に示される事業を遂行する部会を選択し、取り組みたい課題の概要を約八百字程度でまとめ、教學院へ提出する

六、申 込 先

真宗高田派教學院

〒五一四一〇二一四

三重県津市一身田町二八一九

七、採 否

本人に通知する

(審査の結果、お断りすることがあります)



備考 「教学院規約」抜粋

第四条 教学院は（中略）次の事業を行い、その成果を公開及び出版する。

一、新宗教学の研究に関すること

(第一部会)

二、現代思潮と宗教的課題の研究に関すること

(第二部会)

三、僧侶の育成並びに研修に関すること

(第三部会)

四、高田古典並びに法宝物の研究に関すること

(第四部会)

五、その他必要と認められる事業

第六条第三項

研究員は院長が委嘱する。研究員はいずれかの部会に所属し、課題の研究及びその成果を発表するとともに各種研修会の指導にあたる。期間は四年とし更新をさまたげない。



公開講座延期のご案内

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教学院各部会が主催している公開講座を一部中止させていただいております。現在、中止となっている公開講座は第一部会主催の「真宗入門講座」第三回（三・十八）、第四回（四・十五）、第五回（五・二十）です。中止となった講座は再開を予定しておりますが、日程は九月以降を予定しております。



教学院各部会公開講座

第一部会

第9期 真宗入門講座 「聖人のみもとに帰ろう」

テーマ 「讃阿弥陀仏偈和讃（浄土和讃）に聞く」

新型コロナウイルス感染防止のため延期いたします。
再開時期は改めて通知いたします。

第二部会

第24回 仏法と現代を考える集い

日時 令和2年9月2日（水）午後1時30分～午後4時頃

会場 宗務院2階 第1会議室

講師 梶原敬一師
（姫路医療センター小児科医長 真宗大谷派僧侶）

テーマ 医療と仏法

第三部会

布教伝道大会

5月18日（月）に予定しておりましたが、第13回布教伝道大会を
コロナウイルス感染防止のため中止いたします。
延期とするか、来年度に持ち越かは未定です。
追ってご案内申し上げます。

第四部会

新指定重要文化財講座

日時 毎月第4木曜日
午後4時より

会場 宗務院2階 第3会議室

テーマ 『専修寺文書の世界』

講師 新光晴 研究員

聴講希望者は教学院まで問い合わせて下さい